



(山本先生)

中央公民館（生涯学習課）・沖縄県立博物館美術館・沖縄県立玉城青少年の家共催の歴史散歩を開催しました。玉城地区（當山・富里・糸数）、佐敷地区（津波古）に続いて知念地区・知名にスポットを当てました。

講師は、沖縄県立博物館・美術館、主任学芸員の山本正昭先生です。

知名集落は、東側と北側は太平洋に面し、西側には須久名山が聳えている、沖縄本島で最も東側に位置する集落です。知名の名称は、須久名山のふもとにあった**敷名村**から音が変わりして現在の**知名**になったとされ、「敷名」は聖域を意味する「磯城」と土地を意味する「ナ」が合わさった地名であるとの説があります。

知名崎には、知名グスクがあります。17世紀前半に知念グスクに**内間大親**の屋敷が移されるまで、知名グスクは、国王による「東御廻り（アガリウマーイ）」の休憩地でした。

\* 殿や御嶽が多く、琉球王国時代の信仰の深さ、今に伝わる崇敬を学びました。



(右上) 久高島への遥拝所

(左下) かつて集落の遊び庭あしびなごでした。今現在はヌーバレーの歌や踊りを披露する等、行事や憩いの場となっています。



(稲嶺)

須久名山を聖域とする集団とやなを聖域とする集団が1か所にまとまって、新たに作られた拝所であると考えられます。

琉球王国時代、知名の石高は田畠 200 石とされていました。琉球処分後は、首里や那覇から士族が屋取りとして知名に入ります。

\* 屋取とは、士族が農村に移り荒れ地を開墾して住む事。



内間殿→久高島遥拝所→内間井泉→稲嶺→ンジャトゥ井泉→**知名御嶽**→ノロ殿内→ハンタ殿→知名御川→知名ヌヒヤー→与那嶺殿・仲村渠の殿→**村屋跡**→産井泉→**クムイ跡**

\* 大雨の為ンジャトゥ井泉移行行けず公民館にて座学になりました。



歴史ある地域を巡り、成り立ちや変遷を知る事で、普段見慣れた景色が彩られ、愛着が生まれます(+,+)

知名崎には、ティダ御川があります。昭和8年頃までは、清水が流れていたといひます。

知名崎のトラバーチン（大理石）の採掘で水脈が変わり清水が枯れてしまい残念です。

\* 次回の歴史散歩をお楽しみに! (\*\_\*)